



第336号
 2005年(平成17年)
 1月20日
 発行 明治大学
 編集 明治大学広報部
 TEL 03(3296)4083
 E-mail:
 koho@mics.meiji.ac.jp
 東京都千代田区神田駿
 河台1-1(〒101-8301)
 http://www.meiji.ac.jp/

「今こそ、明治の時代」

総長兼学長 納谷 廣美



新年明けまして、おめでとうございませう。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

旧年は、「災」という語で総括されるように、わが国では中越地震など大きな地震がありましたし、大きな台風がいくつも上陸して多大な被害が発生して、改めて自然の力の恐ろしさを実感させられた年でした。また全世界では、今なおテロや戦争、そして貧困と病に苦しむ出来事が続いており、明るい話題は少なかった年だったといえます。

現在、アメリカによる一極支配主義が全世界で、しかも諸分野で浸透しつつある中で、各国は自らの将来、自らの役割を模索しております。たとえばヨーロッパ諸国はEUという枠組みの中で、独自の戦略を展開しています。またアジア諸国においても、中国を中心に新しい動きがある一方で、その周辺諸国も自らの、または共通した課題を抱えて組織化をはかろうとしています。アフリカや中近東、さらには中南米の諸国も自らの将来を語り、独自の方向性を見い出

そうとしています。このような状況の中で、日本は、どのような役割を演じようとしているのでしょうか。一段とグローバル化が進んでいる今日、わが国が明治維新や戦後改革に匹敵するレベルの「第三番目の開国」を求められていることは間違いないことであり、換言すれば、それは日本に対し、世界という大舞台において独自の役割を示し、そして演じる責務を担うことを求めているといえます。「島国育ち」の制度やルールを学び、そしてこれを墨守するだ



明大から文化を発信(第1回文化プロジェクト)



14年ぶりの復活(第81回箱根駅伝)

このように社会の質的転換期をむかえて、わが国は「官から民へ」というスローガンのもと、新しい「国造り」について民意に活路を求めようとしています。幸い、明治大学は若き法律家三名が「個」を認め、「個」を守り、「個」を成長させるために創設した学校でありますから、「今こそ、明治の時代」といえます。

明治大学は、社会の新しいニーズに対応しつつ、将来に備えて大学改革を推進しております。学生諸君には、自らの夢を語り、育て、そして自らが世界で活躍する道を見い出してほしいと願っています。最後になりましたが、今年には幸多い、健やかな年でありますよう祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

けでは、活路を見い出すことができませぬ。日本の中で育った伝統や文化は大切にしながら、他方で旧弊を打破して、新しいモデルを構築することが求められています。今こそ、若者の創造力に期待するところが多大な時代にあるといえます。

点 日本の大学では就職活動に学生が費やす労力は無視できない。それにかかる時間たるや、本分たる学業を一部犠牲にせねばならない程大きい場合がある。そのためか、就職内定がとれても卒業できず、結局就職がふいになるケースや、逆に、四年間しっかり勉学に励み、素晴らしい卒論を提出したのに、就職が困難なケースもある▼アメリカ合衆国ではこのように矛盾したケースは少ない。というのは、会社などが新卒者の採用にあたり、大学の指導教員などに書いてもらう推薦状を重視するからである。学生の立場からすると、就職活動を有利に進めるためには、推薦状を何とかしてもらわないといけないし、そのためには日々授業に真剣に取り組む、好成绩をあげることも前提となる▼推薦状を必要とする制度は、冒頭に指摘した矛盾を解決するのに大変効果的である。つまり、授業に毎回出席して、優れた内容のレポートを提出する学生諸君の就職活動を、教員がバックアップでき、彼らの努力に報いることができるからである。同時に、学生は推薦状獲得のため、学業に日々邁進努力したくなる環境が大学に形成される。一石二鳥である▼勿論、推薦状の制度は大学だけで成立するものではなく、まず採用する側たる会社の方が発足させないと意味がない。しかし推薦状があれば、会社にとっても、個々の学生の成果だけではなく、それにいたる努力のプロセスもわかるわけで、その意味は大きいと思う。日米文化の違いと片付けな

いで、何とか実現できないものか。



第9回明治大学学長杯
留学生日本語スピーチコンテスト

第9回 明治大学学長杯 留学生日本語スピーチコンテスト

前号に引き続き、2004年11月に行われた第9回明治大学学長杯留学生日本語スピーチコンテストで、下記の2賞を受賞した留学生のスピーチ内容を紹介する。

国際交流セン
ター所長賞

私の目で見えた韓流ブーム

金 恵正(キム・ヘジョン) / 農学部2年・韓国



最近テレビや雑誌などで「韓国」という単語を目にしない日はありません。2002年に行われた日韓共催のサッカーワールドカップの時でさえ、これほどまでに日本人が韓国という国についてクローズアップしたでしょうか。今、日本で巻き起こっている韓流ブームの原点は「冬のソナタ」に代表される韓国ドラマの存在が非常に大きく影響していると思います。

私が日本に来て3年半という時間が立ちました。その中で日本人の韓国に対する考え方がずいぶん変わってきていると感じます。実際、日本にきた始めの頃はどこにいても韓国人同士で話すとか何だか白い目で見られているような疎外感を感じることがありました。しかし、最近はそのようなネガティブなものは影をひそめ、良いイメージで迎えてくれる人が増えてきていると感じます。そのように韓国のイメージが変わったきっかけは韓国ドラマの影響が大きかったと思います。

韓国では小学校の歴史の授業からアジア諸国と自国との関係について深く教えられ、特に日本につ



連合父母
会長賞

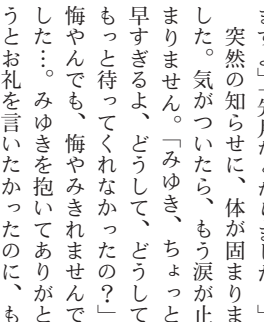
感謝の気持ち

李 雨儒(リー・ウジン) / 経営学部1年・台湾

たのではないかと私なりに感じていました。ところが最近とてもうれしくなることがありました。それは大学生二人に韓国語を教える機会があった時のことです。彼らになぜ韓国語を学ぶのかとたずねてみたところ、それは自分達の周りで身近に日韓交流が活発に起こっていて将来的な希望である貿易関係の仕事をする上でも役に立つであろうし、さらに韓国人の友達とのコミュニケーションが何よりも楽しみだと言ってくれました。こういった意見を聞くことができていることにとても誇りに思っています。さらに私は週末に韓国エンターテインメントカフェでアルバイトをしているのですが、そこでは私の母

みゆきと会ったのは三年前でした。いつもニコニコ微笑み、私のそばにいてくれました。嬉しい時や悲しい時、私の愚痴を聞いてくれ、まるでお姉さんのようでした。私はみゆきの言葉をきっかけに、日本の大学に進学することを決めました。どんな相談にも乗ってくれたみゆきは、私の人生の中でかけがえのない人になりました。

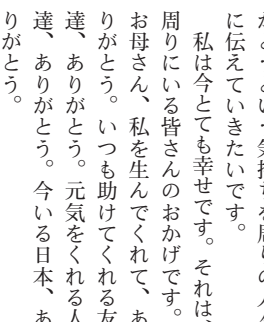
韓国では小学校の歴史の授業からアジア諸国と自国との関係について深く教えられ、特に日本につ



親と同世代の人達がコーヒーを飲むながら韓国の娯楽番組や映画などを観たり、情報交換をしたりと、皆さん日常的に韓国文化に関心を持っているようです。韓国のエンターテインメントが日本人の生活の中にとけこんでいる様子を見ることができて韓国人の一人としてとてもうれしい気持ちでいっぱいです。

しかし、みゆきと一緒に過ごす時間は長く続かなかったのです。ある日、職場で倒れたみゆきは救急車で運ばれました。子宮癌の中期ということが分かりました。「大丈夫だよ、すぐ退院できるから、心配しないで、大学受験の準備をしない」とお見舞いの時にみゆきが言いました。その頃、私は日本の大学で勉強する希望があり、努力していたところで、よくみゆきに励まされていました。二週間後、みゆきは退院し、職場に戻りました。子宮癌になったことを職場の人に内緒にし、我慢して働いていました。みゆきはとても気を遣う人なので、周りに迷惑を掛けたくなかったのです。そんな大変な時、みゆきは家庭の問題

韓国では小学校の歴史の授業からアジア諸国と自国との関係について深く教えられ、特に日本につ



う天国に行ってしまった。みゆきが生きていた間、もっと感謝の気持ちを伝えたいかったです。みゆきが亡くなったことが私に人間と人間の出会いの大切さを教えてくれました。人間は生きていく中で、沢山の人と出会い、成長していきます。みゆきと出会ったことによって、私は大人になったと思います。それは、人に感謝するようになったからです。みゆきに伝えることができなかったありますが、この気持ちで周りの人々に伝えていきたいです。

この韓流ブームが一部の熱狂的な「冬ソナ」ファン限定だとしても、また短期集中型の一過性のものにも過ぎないとしても、日本人の韓国の文化をポジティブに受容しようとする意識を環境を作ったことは、とても重要な意味を持つものになったと思います。地図の上では近隣の日本と韓国がこの韓流ブームをきっかけにますますさまざまなものを交流することができたならば本当の意味で近い存在となるでしょう。初めはブームという名の小さな種がやがては大地に強く根をはり、緑豊かに生長して日韓の新たな友好の歴史の最初のページを飾るような大輪の花を咲かせてくれることを心から願っています。

韓国では小学校の歴史の授業からアジア諸国と自国との関係について深く教えられ、特に日本につ

カヌーを通して

足立 美穂

最終回 (全4回)

出会いに感謝し、自分を信じて

通して、自分を客観的に見られるようになり、まわりに対する感謝の気持ちが生れました。その感謝の気持ちに応えるためにも自分に求められていることに必死で取り組み、未知への可能性を増やし、夢や願いを実現できたことで、夢は夢で終わらないこと、自分にも奇跡が起きることを身をもって体験しました。みなさんにもそんな時間を味わって欲しいと強く思っています。

これまで私たち日本のカヌーチームがオリンピックに出場するのは夢のまた夢、不可能だといわれ続けてきました。それでも同じ目標を持つ仲間4人がほんの少しの可能性にすべてをかけて、オリンピックまでの3年間を過ごすことに決めました。アジア選考レースでの1分30秒、オリンピック出場という願いが現実になりました。しかも、オリンピックでは決勝進出



◆足立美穂(あだち・みほ)
02年商学部卒。アテネ五輪女子カヤックフオア500m9位(カヌー競技日本女子初の決勝進出)。戸田中央総合病院附属看護専門学校職。大分県出身。

というおまけまでついて…。これを手にするために、4人で互いに歩みよることをテーマにレースまでの10ヶ月間、仕事も休み、すべてを犠牲?にして完全合宿を組み、一緒に過ごしました。そこには好き嫌い、プライベートの時間、そんなものは存在しません。個人の能力の向上はあたりまえ、その中でいかに他人同士が歩みより、課題をクリアしていくかを追求する充実した毎日でした。この経験があったから社会人として今、元の生活に戻り、組織の中の自分を客観的に見られるようになり、自分が生かされていることを感じ、心からありがたいと感謝の気持ちを持つようになったと思います。現実には起こるものごとには決して偶然ではなく必然であり、避けては通れないものです。それを変えられるものがあるとするれば自分自身心であり、同じ目標に向かう

大学での4年間は多くの人と出会い、関わり、様々な経験をしながら自分の生き方を探して欲しいと思います。私は今後、仲間を支えながら競技に取り組み、どんなときも自分の気持ちに正直に生きる勇氣を持ちたいと思っています。そんな中で毎日を楽しみ、社会生活の中で人といつものつながって生きていけたら幸いです。

4回にわたって、この文章を読んでもくれた後輩のみなさん、本当にありがとうございます。カヌー・アテネ五輪日本代表

お便り、ご感想をお待ちしています。

①学部②学年③氏名④性別を明記。

明治大学広報部『学園だより』カヌーを通して』係

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

koho@mics.meiji.ac.jp



五輪までの3年間にすべてをかけた(左端が筆者)



政治経済学部ゼミナール発表会を開催

政治経済学部ゼミナール協議会執行部

副委員長 黒瀧 絢子

11月20日土曜日、駿河台校舎リバイタワーにおいて政治経済学部創設100周年記念行事の一環としてゼミナール発表会が開催されました(写真)。

ゼミナール発表会は今年度で2回目を迎え、参加ゼミにおける年間を通しての活動の中でも大きな意味を持つものとして位置付けられました。政治・経済の分野のみならず、その背景に存在する社会や文化などの多岐に渡った研究が盛んに行われています。

このゼミナール発表会では、発表者は日ごろの活動成果をまとめあげ、発表の場を設けることでプレゼンテーション能力を向上させることを、そして学部の

内・外の枠を越え、広く一般の方にも知っていただき、様々な分野への興味・関心を広げていただくことを目的としています。また、この時期は2年生のゼミナール入室試験が近いこともあり、2年生がゼミを選ぶにあたって具体的なゼミの活動による研究の成果と雰囲気を知る要素となるという役割も担っています。

今年度のゼミナール発表会では約20のゼミが参加し、1部1時間を取り、3部に分かれて行われました。発表者はパワーポイントなどの機材を活用するほか、ディベート形式の発表を行うゼミもあるなど、個性豊かなものとなりました。内容も基本的なことから発展的なことにまで及び、その分野に詳しくない人でも十分に関心を広げられるものであります。

このゼミナール発表会は今年でまだ2年目ということもあり、浸透しきっていないとは言えないかもしれませんが、このようなゼミ活動の発表という場はなかなかなく、とても貴重なものであると思います。今後は、参加するゼミも見に来ていただく方の幅も増え、発表会がますます活発化されていくことが期待されます。

(政治経済学部地域行政学科3年)

第120回 第4回 『明大祭』・『生明祭』開催される

明大生パワーを出し惜しむな!!

第120回明大祭実行委員会委員長 横山 大樹



「露2004年『発我』(ちなみに、このテーマは学生の日頃の研究活動・課外活動、そして内に秘めている思い、エネルギーを出し惜しみなく表現していこう、という意味を込めたもの)」とし、当委員会も様々な企てを實行しました。特に今年は、より多くの明大生の活動内容を見ていただくべく、

かつ、まだ復活間もない学園祭であるがゆえに学内、学外に対して、情報宣伝に力を入れ、明大祭の存在をアピールしました。この効果あってか、あいにく雨天の中での幕開けとなりましたが、昨年度を上回る数多くの方々が来祭され、大きな事故もなく閉幕しました。また、学園祭直前に起きた新潟県中越地震に対しても、3日間の募金活動で集まった約25万円を義援金として新潟の被災された方々に送らせていただきました。

今回の明大祭を終えた今、明大生のパワー、バイタリティーは確かにヒシヒシと感じました。しかし、「明大生はまだまだ出し惜しんでいるような気がしてならない!! もったいない!!」というのが私個人としての感想です。これからの「明大祭」が回を重ねるごとに人の心を掴んで止まない、そして明治大学に関わる人にとってかけがいのないものになるよう、私は応援しています。

(政治経済学部3年)

環境にやさしい地元密着型の学園祭

第4回生明祭実行委員会委員長 竹松 伸祐



サートなどは学校見学に来た方々に好評でした。収穫祭の流れを汲んでいる生明祭名物の農学部による野菜販売、花卉園芸部による花販売は近隣住民の方々にも好評でした。

多くの学科、サークルがある生田キャンパスの学生が、研究や作品発表を行い、彼らが持っている考えや想いを皆様に感じてもらえ

ような学園祭にしたいという思い、また今年度も学園祭を開催したいという多くの心を表すという意味も込めた今回の生明祭のテーマ「幾多の心」を達成するべく、我々実行委員は5月より活動してきました。今年度で生明祭も4回目を数え、実行委員内の組織が確立されたので、再利用できるエコ容器の使用、生ゴミの肥料化、割り箸と串のチップ化など、ゴミを少なくし、理系のキャンパスらしく環境に配慮したことをはじめ、7000人を越える学生が参加したフットサル大会、新設した広報局による他大学との交流と企業協賛のシステムの確立、学内全体を使った装飾、飲酒時間の制限など挙げればきりがなほほど新しいことにチャレンジし、それぞれ成功させることができたと思います。また今年度は、近隣住民の方々にも、数多く生明祭に来ていただき、参加していただきたいと考え、フリーマーケットに出店していただいたり、地元商店にポスターを貼っていただくなど、より地元密着型の学園祭となりました。



生明祭ならではの花卉販売



新潟県中越地震への募金活動

10月30日から11月1日の3日間、明治大学の全学祭である明大祭が和泉校舎にて開催されました。今年、組織決定にあたり「より多くの学生へ広い門戸を」と大学側と協議し、公認サークルに対して公募をかけ、86名もの有志が集い6月末、第120回明大祭実行委員会を立ち上げました。しかし、実行委員会が組織されたものの、昨年から引継ぎが無いに等しく、各委員が苦勞した部分が多々見受けられました。その中で、我々は試行錯誤を繰り返しながら当日に向け準備を進めました。

今年、テーマ「スローガン」を生田キャンパスにて「第4回生明祭」が開催されました。今年度は3日間とも暖かく晴天に恵まれたこともあってか、我々の予想を大きく上回る来場者数を記録し、3日目にはパンフレットが足りなくなってしまうほどでした。その中でもロバート、タカアンドトシ、カラテカによるお笑いライブは事前の問い合わせが殺到し、当日も特設ステージには溢れんばかりの人が集まり、通行が困難になるほどでした。また、創立50周年を迎えた理科部連合会をはじめとする様々なサークルによる研究発表や中央校舎1階で行われたミニコン



歌舞伎の上演

2004年11月21日から23日、生田キャンパスにて「第4回生明祭」が開催されました。今年度は3日間とも暖かく晴天に恵まれたこともあってか、我々の予想を大きく上回る来場者数を記録し、3日目にはパンフレットが足りなくなってしまうほどでした。その中でもロバート、タカアンドトシ、カラテカによるお笑いライブは事前の問い合わせが殺到し、当日も特設ステージには溢れんばかりの人が集まり、通行が困難になるほどでした。また、創立50周年を迎えた理科部連合会をはじめとする様々なサークルによる研究発表や中央校舎1階で行われたミニコン



大盛況のお笑いライブ

最後にになりましたが、生明祭開催にご支援、ご協力いただいた教職員の方々を始め、すべての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また半年にわたり、生明祭の成功に向けて、夏休みも削り、毎日遅くまで残り、頑張ってくれた実行委員のみなさんには本当に感謝しています。僕は今年で引退ですが、来年以降もこの実行委員の後輩たちへ、より良い生明祭を作り上げてくれると思います。今後とも生明祭を宜しく願っています。

最後にになりましたが、生明祭開催にご支援、ご協力いただいた教職員の方々を始め、すべての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また半年にわたり、生明祭の成功に向けて、夏休みも削り、毎日遅くまで残り、頑張ってくれた実行委員のみなさんには本当に感謝しています。僕は今年で引退ですが、来年以降もこの実行委員の後輩たちへ、より良い生明祭を作り上げてくれると思います。今後とも生明祭を宜しく願っています。

(理工学部4年)

相談室の窓から

大矢 健
(相談員・理工学部助教授)

僕は、あんまりマッチョな人間ではないようで、すぐ泣く、すぐ祈る。辛いとシクシクするし、可哀想だと思っただけ涙を流す。特定の宗教に帰依しているわけでもないのだが、それでもせつぱ詰まると、なぜか手を合わせている。たぶん、あれは祈っているのだらう。心も体も頭も空っぽになるような気がするからなのかもしれない。相手は仏さま

生きること、死ぬこと、祈ること

きは死ぬだけなので、死は想像するほうが恐いのだとエドガー・アラン・ポーという作家は考えた。そうなのかもしれないとおおかた同意して、これもマスターしたつ頃、やたらに死ぬのが恐かった。自分が消滅する、そして世界に自

か、イエス・キリストか、アララの神かわからない。もしかしたらユダヤ人にも興味があるので、旧約のおかない神様なのかもしれない。懺悔している様子は確かにある。僕は自分が死ぬのは、もう恐くはないと思っっている。そう思っっているらしいと思っっている。死ぬと

ような事実に、当方としては／何の責任も感じない。おそらくこういうのを実存主義というのだと思う。それを僕は大学生だった頃、信奉した。生に意味を与えるのは死、という具合に。でも、死に過剰な意味を与えず生きてるんじゃないか、と今は結論している。

あの頃の最大の発見は、「人生には意味がない」だった。今思えば、「意味」という言葉の意味を考えていなかったせいで単に混乱していただけなのだろう。そう、意味はないのです。ただ意味なしには人は生きられない。これがあらゆる不幸の原因だ。それでも、自分の生を意味あるものにできるのも自分だけなのだ、と考えれば随分と楽になると気がついた。

海のむこうでは、今日も殺し合いが続いている。餓死する子供たちが山といる。だから生きたいな、と思っっている。みんなの健闘も祈ってます。多くの人が訪れる場所でないほうがもちろんいいのだけど、何かあってせつぱ詰まったら、学生相談室へどうぞ。教会やお寺の役割を引き受けまます。

学費の納入について

- 後期分学費をまだ納めていない方は至急納入してください。
- 次年度の学費振込用紙は4月1日発送の予定です。
2005年度より、前期の納入期限は4月30日になりました。口座番号や振込金額が間違っていた場合、未納扱いとなりますので、必ずお手元に届く振込用紙で口座番号・金額を確認のうえ、お振込みください。
住所・送付先等の変更がある場合は、所属する学部・短期大学・大学院の各事務室へ至急「変更届」を提出してください。
- 2月・3月の事務取扱時間は下記のとおりです。
月～金 9:00～17:00
土 8:30～12:00

財務部 資金課学費係
TEL 03-3296-4096・4097

2005年度 学生定期健康診断のお知らせ

定期健康診断を次の日程で実施しますので必ず全員受診してください。 学生事務部

【駿河台校舎】受付：リパティタワー15階

	9:00~11:00	13:00~15:00	17:00~19:00
4月4日(月)	男子 法・文・経営学部 4年生 大学院生	女子 全学部 3・4年生 大学院生	男子 二部全学部 大学院生
4月5日(火)	男子 商・政経学部 4年生	男子 法・文・経営学部 4年生	女子 二部全学部 大学院生
4月6日(水)	女子 法・商・文学部 3・4年生	男子 商・政経学部 3年生 商学部 4年生	男子 二部全学部 大学院生
4月8日(金)	男子 法・文・経営学部 3年生 大学院生	女子 政経・経営学部 3・4年生	女子 一部文学部 3年生 一部全学部 4年生 大学院生
4月9日(土)	男子 商・政経学部 3年生 政経学部 4年生 大学院生	男子 法・文・経営学部 3年生 大学院生	女子 (18:30で終了) 二部全学部 大学院生

【和泉校舎】受付：第一校舎 1階エレベーター前

	9:00~11:30	13:00~16:30
4月4日(月)	男子 文学部 1年生 商学部 2年生(予備日)	男子 政経学部 1年生 情報コミュニケーション学部 1年生
4月5日(火)	男子 法・政経・文・経営・ 情報コミュニケーション学部 2年生 (予備日)	男子 商学部 1年生
4月6日(水)	男子 経営学部 1年生	男子 法学部 1年生
4月8日(金)	女子 商学部 1年生	女子 政経・文・経営学部 1年生
4月9日(土)	女子 法 1年生 法・政経・経営学部 2年生	女子 情報コミュニケーション学部 1年生 商・文・情報コミュニケーション学部 2年生
4月11日(月)	男子 法・政経・経営学部 2年生	男子 商・文・情報コミュニケーション学部 2年生

※2年生男子の指定した日時に受診できない場合は、予備日4日(月)、5日(火)の9:00~11:30に受診してください。
※2年生女子は9日(土)のみですが、やむを得ず受診できない場合は、1年生女子の指定日8日(金)に受診してください。

【生田校舎】受付：食堂スクエア21 1階ラウンジ

	9:00~11:00	12:30~15:20
4月4日(月)	女子 理工・農学部 1~4年生・大学院	男子 理工・農学部 2~4年生・大学院
4月5日(火)	男子 理工・農学部 2~4年生・大学院	男子 農学部 4年生・大学院
4月6日(水)	男子 理工・農学部 2~4年生・大学院	男子 理工学部 4年生・大学院
4月8日(金)	男子 理工学部 1年生	男子 農学部 1年生
4月9日(土)	女子 理工・農学部 1~4年生・大学院	男子 理工・農学部 1~4年生・大学院

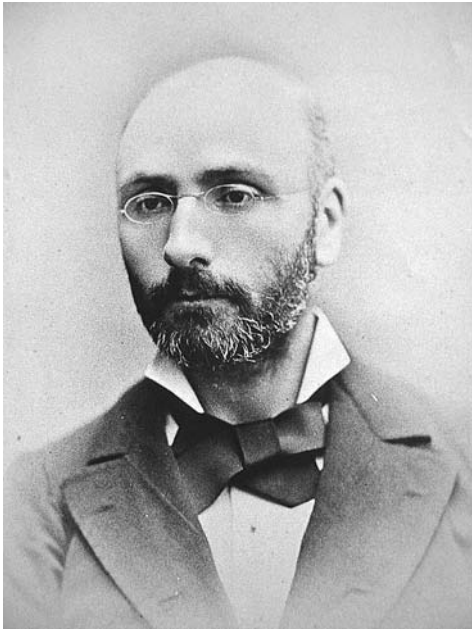
- スケジュール変更もありますので、詳細は各地区掲示板またはホームページで確認してください。
- 検査項目：身長・体重・視力・検尿・血圧・問診・内科診察・胸部X線
- 受診に必要なもの：学生証、HB鉛筆、メガネ、コンタクト(使用者)、無地のTシャツ(女子)
- 2005年度に和泉体育館内のコンディショニングルームを利用するためには、この「定期健康診断」を受診していることと、コンディショニングルームの「利用講習」を受講することが条件となっています。

大学史の散歩道

64

大学史資料センター委員

村上一博 (法学部教授)



アペールの肖像

パリの地下鉄13号線あるいは高速郊外鉄道(RER)のC1・3号線に乗って、パリ市北部17区のポルト・ド・クリシイ(Porte de Cligny)駅で降りよう。地上に出ると、文豪バルザックの名を冠した高等中学校(Lycée honore de

Balzac)の校舎が広がっている。アペールの眠るパティニヨル市民墓地(Cimetière parisien des Batignolles)は、その校舎の裏手にある。墓地全体は、その北側をパリ外環自動車道路の高架橋が覆い被さっているために少し重苦しい印象をうけるが、アペール家の墓は、磨き上げられた真新しい花崗岩と、季節ごとの花々に飾られて美しい。

ジョルジュ・ヴィクトル・アペール(Georges Victor Appert、一八五〇〜一九三四)と言っても、その人物と事績について知る人は少ないであろう。彼の名前は、フランス人として同じく司法省御雇法律顧問であったボワソナードほどには、一般に知られていない。

司法省御雇法律顧問 ジョルジュ・アペール 『我が司法界の恩人』

晩年の住所地



確かに、刑法・民法の典の編纂など立法事業における貢献という点で劣るとはいえず、教育を通して西欧の近代法学・経済学を普及させたという点で言えば、若きアペールの果たした役割は、ボワソナードに優るとも劣らない。

アペールは、明治一二(一八七九)年一月に、司法省雇の法律顧問兼法学教師として来日し、明治二二(一八九九)年一月に帰国するまで、一時帰国した期間を除くと、八年余りにわたって日本に滞在したが、その間、司法省法学校(その後、東京大学法学部・帝国大学法科大学)をはじめ、東京法学校(法政大学の前身)・明治法律学校(明治大学の前身)などで、フランス刑法・行政法や経済学の講義を担当し、多くの法律家を養成した。アペールの計報に接して、織田萬が「我が司法界の恩人」とその功績をたたえた所以である。司法省法学校での講義は、もっぱら正則科および速成科の第二期以降を対象であったから、明治法律学校を創立した岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操ら正則科第一期生は、彼の講義を受けていない。明治法律学校では、開

校直後の明治一四年二月から四九回にわたって経済学を、続いて、翌一五年一〇月から九回にわたって理財学を講義している(通訳は宇川盛三郎)。経済学講義では、経済学の目的を、富の形成とその流通・分賦・消費方法の解明にあるとするが、これはフランス古典派経済学者のジャン・バチスト・セイ(Jean Baptiste Say)の影響を受けたもので、明治政府による殖産興業に指針を与え、また法律と経済の関連を自覚する機会を与えたものと評価されている。理財学講義では、国庫の歳出と歳入について語り、歳出において主体を国家から地方へ転嫁させるべき項目を指摘したり、歳入の比率を直接税から間接税へ移行していく必要性を指摘するなど、経済自由主義を基調とした講義を展開している。後年、アペールは、この時

の講義を回顧して、「予ハ多少法律ヲ知レリ。之ニ反シテ予ノ経済上ノ知識ハ頗ル浅薄ナリシコトヲ自白ス。然ルニ学生ノ熱心ト智力トハ甚ク強大ニシテ以テ講師ノ足ラサル所ヲ補フニ足レリ」と述べているが、この一文からだけでも、彼の誠実な人柄と生徒たちに向けられた温かな情愛をうかがうことができるであろう。

彼は、また、日本の文化・旧法制度について関心をもち、離日前年の明治二二(一八八八)年には、木下廣次の協力を得て『旧日本(Ancien Japon)』(博聞社)を刊行し、フランスに帰国してからも、大宝律令や貞永式目のフランス語訳などを多くの論文を発表している。日本の文化・旧法制度に関する彼の幅広い研究は、御雇外国人のなかでも、とりわけ際だっていたのだが、その研究目的は、明治一七(一八八四)年七月に司法省法学部の卒業式で「余ハ是迄ニ己私人ノ所著ニシテ日本ノ事情ヲ記録セル多少ノ冊子ヲ閲シタルカ、概ネ其事実ヲ誤レリ。余ハ竊ニ此等ノ冊子カ日本國ノ災ヲ醸サンコトヲ恐ルナリ」と述べ、日本についての正確な情報を西欧社会に紹介する必要性を強調していることから推測して、自分自身でこの課題に応えようとしたのだと考えてよいであろう。

帰仏後のアペールの動静については、西堀昭氏の精力的な調査によってほぼ明らかとなっている。樹立二〇〇三年)など、参照。

の講義を回顧して、「予ハ多少法律ヲ知レリ。之ニ反シテ予ノ経済上ノ知識ハ頗ル浅薄ナリシコトヲ自白ス。然ルニ学生ノ熱心ト智力トハ甚ク強大ニシテ以テ講師ノ足ラサル所ヲ補フニ足レリ」と述べているが、この一文からだけでも、彼の誠実な人柄と生徒たちに向けられた温かな情愛をうかがうことができるであろう。



アペール家の墓

『明治大学学園だより』はホームページでも読むことができます。
http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/gakendayori/index.html

西堀昭『日仏文化交流史の研究(増訂版)』(駿河台出版、一九八八年)、村上博「アペール・日本におけるフランス法の影響について」(『同志社法学』二〇〇二、一九八八年)、秋谷紀男「明治期から大正期に至る明治大学の経済学・財政学の系譜」(『駿台学の樹立』二〇〇三年)など、参照。

第81回箱根駅伝 紫紺のタスキを繋いだ10人(関連記事8面)

1区・岡本 直己(おかもと・なおき) ①政経2 ②175 cm、54 kg
 ③鳥取・由良育英 ④緊張はしなかったが、力不足を痛感した。1区はみんな速かった。来年はどの区間を任されても区間5位以内で走りた。



2区・幸田 高明(こうだ・たかあき) ①政経3 ②180 cm、62 kg
 ③京都・洛南 ④自分が考えていたより厳しい舞台だったが、2区のスタートは気持ちよかった。明治の応援が凄くて、走りながら感動した。また一からチームを作り直して戦えるチームを作りたい。来年度は最終学年なので、シード権を後輩の置き土産にしたい。



3区・田中 文昭(たなか・ふみあき) ①法2 ②170 cm、55 kg
 ③兵庫・西脇工 ④力不足だった。他

①学部学年②身長・体重③出身高校④箱根を走って

校との差は追いつけない差ではないので、一から出直してシード権を獲りたい。



4区・池邊 稔(いけべ・みのる) ①商2 ②170 cm、53 kg
 ③岡山・倉敷 ④自分の力がまったく出せなかった。予選会がまぐれになってしまったので、実力をつけて予選会を突破したい。来年は5区(山登り)を走りたい。



5区・尾籠 浩考(おごもり・ひろたか) ①文2 ②168 cm、57 kg
 ③兵庫・西脇工 ④全国高校駅伝走ったが応援が比喩のものにならなかった。力が足りず2人に抜かれたが、来年は2人抜きたい。山登りは最初からきつかった。



6区・青田 亨(あおた・すすむ) ①文2 ②170 cm、59 kg
 ③愛知・豊川工 ④緊張して眠れなかった。コーチの指示どおりに走れたが、上に12人いた。来年は最低シード権獲得。予選会を余裕で突破できる力をつけたい。



7区・木村秀太郎(きむら・しゅうたろう) ①文1 ②173 cm、54 kg
 ③広島・世羅 ④浮いていた。自分の走りが全然できず、不完全燃焼だった。この経験を次に活かしたい。



8区・辻村 充(つじむら・みつる) ①文3 ②171 cm、52 kg
 ③山形・東海大山形 ④普通の大会と違い沿道の声援が凄くて、助けられた。シード権争いをしたかった。



9区・細井 崇明(ほそい・たかあき) ①政経3 ②184 cm、60 kg
 ③栃木・宇都宮 ④自分の実力は発

揮できたが、力のなさを思い知った。来年はシード権獲得に貢献したい。



10区・佐藤 慈(さとう・しげる) ①政経4 ②163 cm、50 kg
 ③神奈川・大磯 ④正直地獄だった。楽しめなかった。応援は耳がガンガンするほど聞こえた。西監督が来る前までは箱根に出られると思わなかった。4年間を振りかえると短かった。後輩たちには箱根の借りは箱根で返してほしい。



西弘美駅伝監督 久しぶりの箱根で少し硬かった。選手は力を出きつていない。来年は何が何でも大手町のスタートラインに立つ。



納谷 廣美 総長兼 箱根駅伝最 高だった。明治全 体に一体感が出て きて本当にうれし

い。選手はすごい思い出を私たちに与えてくれた。来年はもっと学生を巻き込んで応援したい。

学生交流会に参加して

文学部4年 河野 真人

11月27日(土)、リパティタワー・リパティホール、岸本辰雄記念ホールにおいて、近畿・中国・四国地域出身の学生を対象とした学生交流会が開かれました。この交流会は、同郷出身の学生が所属学部短期大学の枠を越え、出会い、知り合い、コミュニケーションを図る「広場」として一堂に集い、交流を深めることを目的としています。

第一部では、明大出身の俳優であり舞台監督も、現在、特別招聘教授をしておられる原田大二郎氏をお招きし、「声を出そう!表現しよう!」というテーマで講演が行われました(写真)。講演は原田氏のユーモアあふれる人柄から笑いの絶えないものとなりました。原田氏には学生の頃の話から、つい最近行われた舞台の話など非常に幅広く、

しかし丁寧な伝えたいことを、しっかりと要点を押さえながら話していただきました。様々な詩をもとに、会場にいる全員が原田氏と共に声を出し、その詩を表現したりしました。それは非常に楽しいものであり、これから人とコミュニケーションをとる上で必ず役に立つものになりました。「声を出して表現する」ということは非常に難しいことだが、表現の仕方だけでは様々な意味を成す」ということを、原田氏は伝えたかったのではないのでしょうか。そして、何より大きな声を出すということとは気分が良くなり、幸せな気分になれるということが重要ではないのでしょうか。

第二部では、場所を岸本辰雄記念ホールに変え、懇親会が和やかに行われました。第二部は常に学生中心で行われ、学生同士が話をする時間を大切に、多くの学生と知り合えたことは大変うれしく思っています。なにより同郷の出身の人と知り合えるということは大きな意味をなすはずです。ほかにも応援団・チアリーダーの演技を見たり、会場全員で校歌を歌ったり、非常に面白い時間を過ごしました。来年度は今年より多くの学生が参加し、さらに深く意義のある交流会が行われることを期待しています。



明治大学連合父母会主催 学生交流会

第81回箱根駅伝 力及ばず、明大総合18位

『明治大学学園だより』はホームページでも読むことができます。
http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/gakendayori/index.html

第81回箱根駅伝総合順位

①	駒大	11時間 3分48秒
②	日体大	11時間 7分23秒
③	日大	11時間 7分48秒
④	中大大	11時間 7分49秒
⑤	順大大	11時間 8分47秒
⑥	東海大	11時間10分32秒
⑦	垂大	11時間11分40秒
⑧	法大	11時間13分53秒
⑨	中央学大	11時間14分35秒
⑩	神奈川大	11時間14分49秒
⑪	早大	11時間15分11秒
⑫	大東大	11時間17分23秒
⑬	大東洋大	11時間18分45秒
⑭	山梨学大	11時間20分58秒
⑮	城西大	11時間22分49秒
⑯	帝京大	11時間25分 3秒
⑰	専大	11時間25分14秒
⑱	明大	11時間28分23秒
⑲	拓大	11時間35分 8秒
	関東学連選抜	11時間26分38秒

※関東学連選抜は参考記録
※10位以上は来季出場権(シード権)獲得



第81回東京箱根間往復大学駅伝競走(東京・大手町⇄箱根・芦ノ湖往復の10区間217.9km、出場19校・オープン参加1チーム)が1月2、3日に行われ、14年ぶりに出場した明大は11時間28分23秒の総合18位に終わった。優勝は駒大(11時間3分48秒)。明大は1区から16位と出遅れ、一時12位まで順位を上げるも流れをつかめないまま往路16位でフィニッシュ。復路も終始苦しい走りでも最下位の19位。目標のシード権(10位内)には届かず、来季も予選会からの挑戦になる。(関連記事7面)

第81回東京箱根間往復大学駅伝競走総合記録 往路(5区間/108.0km)・復路(5区間/109.9km)

1区(21.4km) 大手町→鶴見	2区(23.2km) 鶴見→戸塚	3区(21.5km) 戸塚→平塚	4区(21.0km) 平塚→小田原	5区(20.9km) 小田原→箱根	往路成績
岡本 直己 ⑬ 1時間 4分14秒 ⑯ 1時間 4分14秒	幸田 高明 ⑫ 1時間10分45秒 ⑫ 2時間14分59秒	田中 文昭 ⑩ 1時間 5分38秒 ⑭ 3時間20分37秒	池辺 稔 ⑩ 1時間 4分43秒 ⑭ 4時間25分20秒	尾籠 浩考 ⑰ 1時間16分 3秒 ⑯ 5時間41分23秒	⑯ 5時間41分23秒
6区(20.8km) 箱根→小田原	7区(21.3km) 小田原→平塚	8区(21.5km) 平塚→戸塚	9区(23.2km) 戸塚→鶴見	10区(23.1km) 鶴見→大手町	総合成績 往路成績 復路成績
青田 享 ⑬ 1時間 1分28秒 ⑯ 6時間42分51秒	木村秀太郎 ⑱ 1時間 8分 2秒 ⑯ 7時間50分53秒	辻村 充 ⑯ 1時間 7分46秒 ⑯ 8時間58分39秒	細井 崇明 ⑱ 1時間12分22秒 ⑯ 10時間11分 1秒	佐藤 慈 ⑳ 1時間17分22秒 ⑯ 11時間28分23秒	⑯ 11時間28分23秒 ⑯ 5時間41分23秒 ⑯ 5時間47分 0秒

※上段は区間順位・区間記録/下段は通算順位・通算記録

2005年度 学年暦

前期	
前期期間	4月1日(金)～9月19日(月)
入学式	4月7日(木)
学習指導	駿河台・和泉校舎 4月2日(土)～4月9日(土) 生田校舎 4月4日(月)～4月9日(土)
授業開始	全校舎 4月11日(月)
補講期間	駿河台・和泉校舎 7月2日(土)～7月16日(土) の3週土曜日の通常時限を利用 生田校舎 7月19日(火)・20日(水)
定期試験	全校舎 7月21日(木)～7月30日(土)
授業終了	全校舎 7月30日(土)
夏季休業	8月1日(月)～9月19日(月)
後期	
後期期間	9月20日(火)～3月31日(金)
授業開始	全校舎 9月20日(火)
補講期間	駿河台・和泉校舎 12月10日(土)～12月24日(土) の3週土曜日の通常時限を利用 生田校舎 1月21日(土)・23日(月)
定期試験	駿河台・和泉校舎 1月23日(月)～2月4日(土) 生田校舎 1月24日(火)～2月4日(土)
授業終了	全校舎 2月4日(土)
卒業式	全校舎 3月26日(日)
大学祭	明大祭(和泉校舎) 11月1日(火)～11月3日(木) 生明祭(生田校舎) 11月18日(金)～11月20日(日)

※補講日については、学部により上記以外の場合もある。

苦戦を強いられた明大FW陣
[写真提供・明大スポーツ]



明大	7	0	7	10	28	38
明大	31	19	12	21	6	27
明大	7	12	19	12	27	26
明大	7	12	19	12	27	26

第41回全国大学ラグビー選手権

一回戦(瑞穂) 12・19

準々決勝(秩父宮) 12・26

明大 7 (0 | 7 | 10 | 28) 38

明大 31 (19 | 12 | 21 | 6) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

明大 7 (7 | 12 | 19 | 12) 27

ラグビー・全国大学選手権

法大に敗れ、ベスト8で敗退

第41回全国大学ラグビー選手権大会の準々決勝が12月26日、東京・秩父宮ラグビー場で行われ、明大は7-38(前半7-28)で法大に完敗、ベスト8で敗退した。

一回戦で大体大を31-27とからも退けて望んだ準々決勝、明大が7-7の同点に追いついた後の前半27分、法大のトライで勝ち越されると、あとは防戦一方。攻撃の形も作れず、後半は法大ディフェンスに完封された。特に平均体重で10kg近く下回る法大FW陣に4トライを許し、明早戦で復活の兆しを見せた重戦車FWのお株を完全に奪われた。

これで6年続けて準決勝を前に姿を消し、「ラグビー部の正月」はまた来年に持ち越された。